

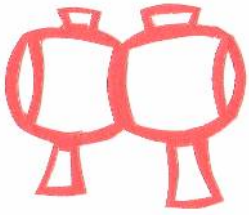
だいいこく通信 第十五号 「秋の号」

ついでに

日頃より当社での神明奉仕にご協力を賜り、ありがとうございます。社報「だいいこく通信」第十五号をお届けします。今回は当神社の催しなどについてご紹介いたします。

今年の夏の暑さはいつになく厳しいものでした。十月に入ってもまだ暑さは続き、ここへきてようやく秋らしい陽気になってまいりましたが、今年台風シーズンが後ろにずれたようので、たびたび強い雨風に見舞われております。地球温暖化についてはさまざまな議論があるようですが、気候が大きく変化していることは確かだと思われます。自然の力を改めて思い知らされる日々です。季節の変わり目ゆえ、くれぐれも体調に気をつけてお過ごしくださいませ。

大國神社 宮司 大島資生



大國神社の今

(1) 「第二回だいいこく落語会」を開催しました



お蔭様をもちまして、去る十月十二日、第二回だいいこく落語会を盛況のうちに開催することができました。ご来場くださいました皆様、ありがとうございます。古今亭菊之丞師匠により「親子酒」「寝床」二席をたっぷり聴かせていただきました。師匠の巧みな語り口、洗練されたしぐさで、神社の拝殿がしばし江戸情緒で満たされました。本物の伝統芸能を堪能することができました。

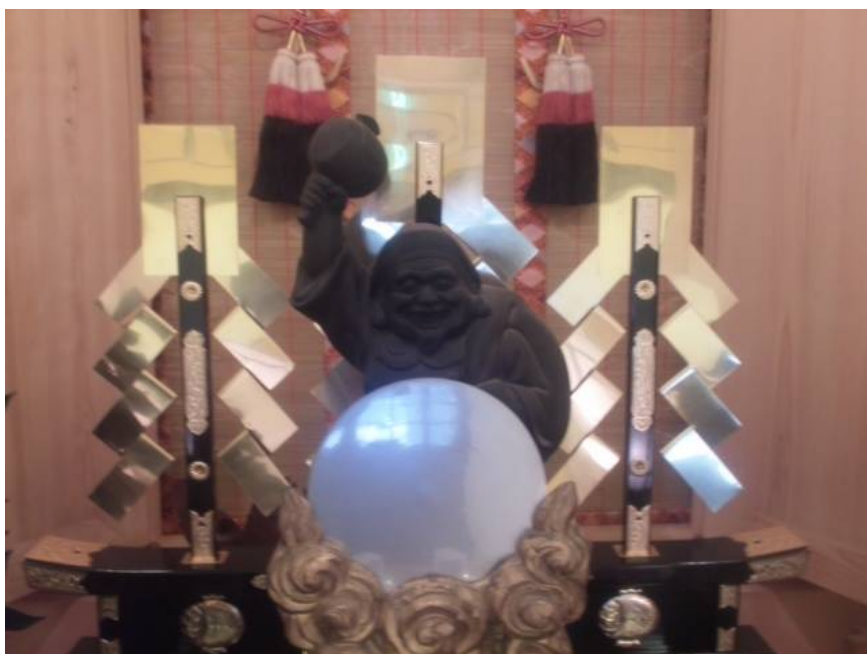
「だいいこく落語会」は今後も継続してまいりたいと存じます。次回の予定が決まり次第、改めてご案内いたします。

(2) 花火会を開きました。



八月から九月にかけて、境内にてささやかな花火の会を三回行ないました。近隣のお子さんや町の盆踊りの帰りの中学生さんがご参加くださいました。今後も、境内を活かした催しを考えてまいります。

お宮あれこれ「鏡」と「御幣」



神社のご神前には写真のように鏡や御幣(ごへい)が置かれています。これがよくあります。これにはどういう意味があるのでしょうか。今回は鏡と御幣についてお話ししましょう。

神社でお祀りする神様は具体的な姿をもっていないらしいません。古代には、岩や木、あるいは山に神様が降り

てくるのだと考えられていました。このように神様が降りてくるものを「依代(よりしろ)」と言います。神社の鏡や御幣も依代の一種で、神様が宿るとされるものです。なお、地鎮祭などでは榊を立て、幣をつけた「神籬(ひもろぎ)」を使います。これも、その土地を治める神様を、祭祀の間お招きするための依代です。

では、まず鏡についてみてみましょう。鏡は剣・玉とともに宗教的な意味合いを持つ貴重なものとして扱われてきました。神話の中では、鏡・剣・玉の三つが「三種の神器」天孫降臨の際にアマテラスからニギノミコトに授けられたとされています。また、有名な天岩屋戸神話には、こんなエピソードが綴られています。岩屋戸に籠られたアマテラスが、岩屋戸の外で賑やかな音がするのを不審に思われ、外を覗かれます。その時、すかさず鏡が差し出され、アマテラスは鏡に映ったご自分の姿をご覧になり、ほかの神が現れたのだと思われた、というものです。

次に「御幣」です。「幣」は「ぬさ」とも読み、神に祈る時や、穢れを祓う時に捧げられる物を指します。古代では貴重品だった木綿、麻などの布、のちには紙が用いられるようになりました。

百人一首に菅原道真公の歌が採られています。

このたびは ぬさもとりあはず 手向山 もみぢのにしき
神のまにまに

〔解釈〕今回の旅では、神さまに捧げる幣（ぬさ）をご用意することができませんでした。この手向山（現在の京都府と奈良県の県境の山）の錦織のように美しい紅葉をどうぞ神さまの御心のままにお受けください。

この歌に詠まれた「ぬさ」は紙や絹を細かく切ったもの（切り幣）で、旅の途中、道祖神にお供えしたもののようです。幣が

捧げ物だったことがよくわかります。

神社でのお祓いで用いられる玉串には、白い紙を折ったものがつけられています。これは「紙垂（しで）」と言い、幣の一種です。玉串はお参りの際に、気持ちを含めてご神前にお供えするものです。ここにも幣の元々の意味合いが端的に現れていると言えましよう。



今回の鏡や御幣のほかにも、神社では様々な祭具が用いられます。その中には、古い由来を持つものがたくさんあります。お参りの際、注目してみてくださいはいかがでしょう。



祭礼・祈禱などのご案内

○次回甲子祭

平成二十五年十二月二十四日（火）

（一）祈禱時間 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日（午前六時～正午まで）

○正月用鏡餅（五寸・紅白）のお申し込みを受け付けます。
一台三五〇〇円です。社務所までお知らせください。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは以下の電話番号に
お願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージの
あとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のち
ほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈禱受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮
参りなど、随時祈禱を行っております。祈禱日時については、
お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

○三三三九一八一七九三〇

お急ぎの場合は携帯電話へ ↓ 〇八〇一九八七七八七一六

eメール daikokujinja@gmail.com

次号発行予定

「だいきく通信第十五号」、いかがでしたか。次号「冬の号」
は、平成二十五年十二月二十四日の甲子祭に発行予定です。

「だいきく通信」第十二号 平成二十五年十月二十五日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇—〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二—二一十一

<http://www.daikokujinja.org>

